

第1回 つながろう つなげよう 相談機関交流会

福祉まるごと連携による 相談支援体制

(彦根市「我が事・丸ごと」の地域づくり推進事業)

社会福祉法人彦根市社会福祉協議会
相談支援課

福祉まるごと連携による相談支援体制による取組 (彦根市「我が事・丸ごと」の地域づくり推進事業)



多機関協働事業
様々な課題の整理(解さほぐし)
まるごと連携検討コア会議
まるごと連携会議

アウトリーチ支援事業

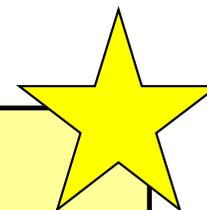
本人とのつながり構築。
適切な支援へのつなぎ

参加支援事業

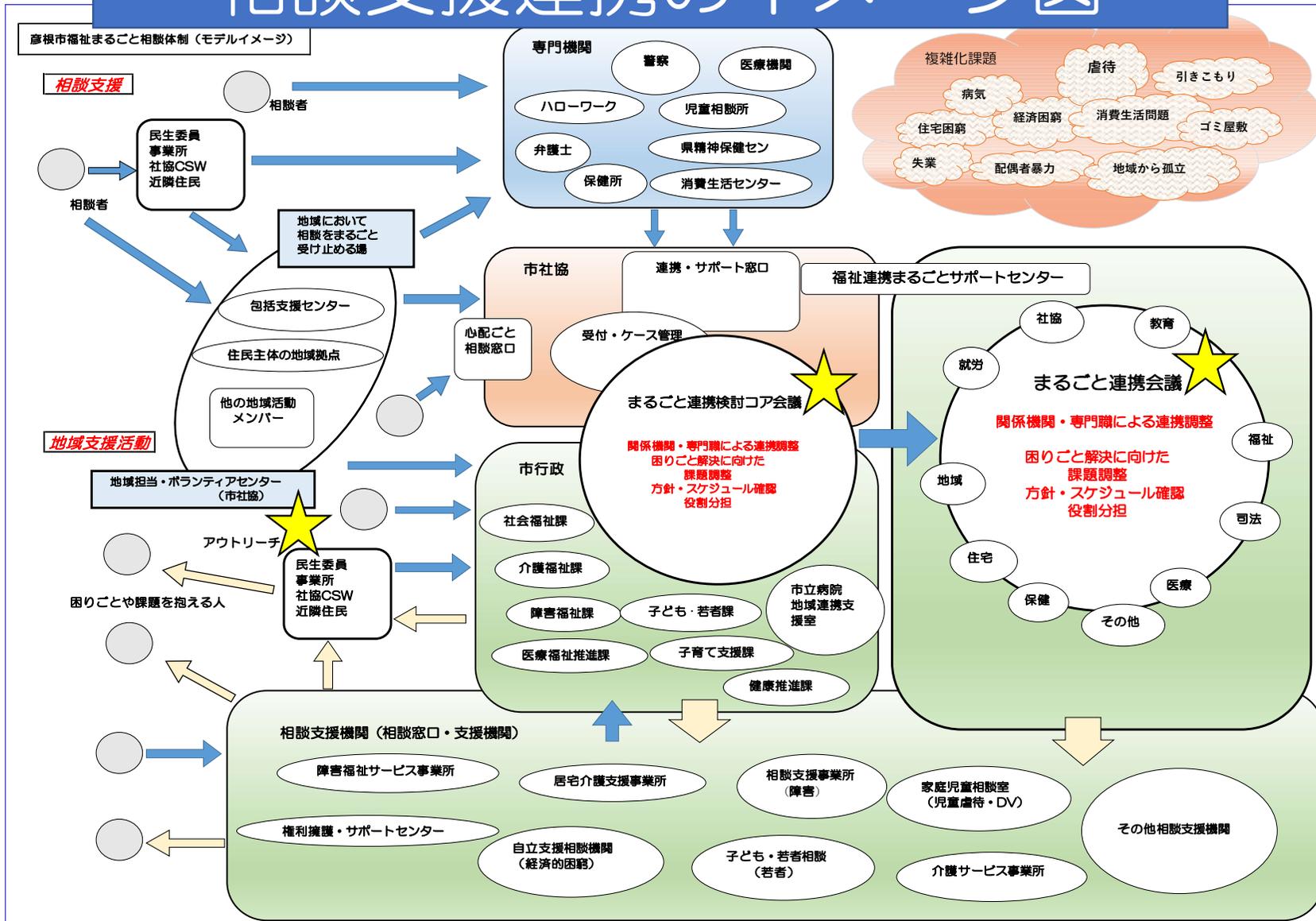
社会参加のための支援

地域づくり事業

居場所づくりや
ボランティアコーディネート等



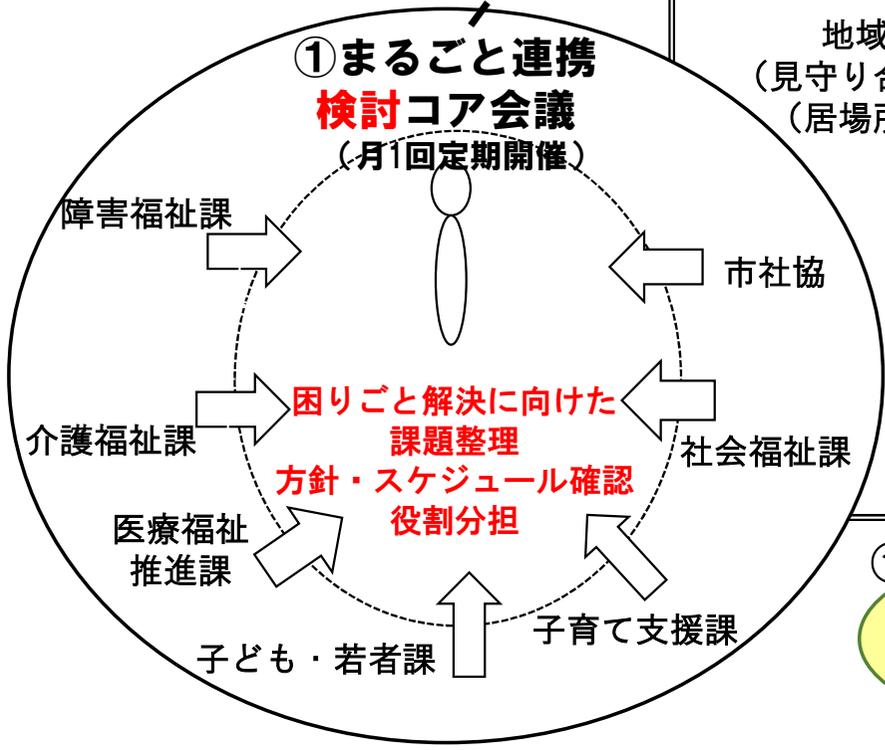
相談支援連携のイメージ図



多機関協働事業

会議の開催支援を
相談支援包括化推進員
(市社協) が担当

【既存の制度等では
こぼれ落ちる課題への対応】

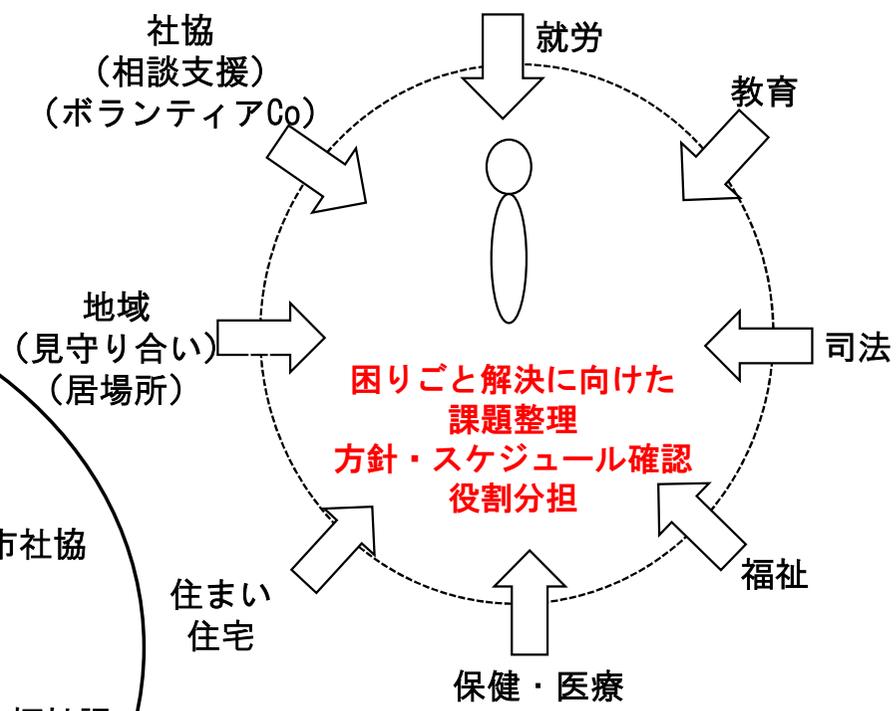


②まるごと連携会議 (随時開催) 〔外部機関も参加。機関は内容による〕

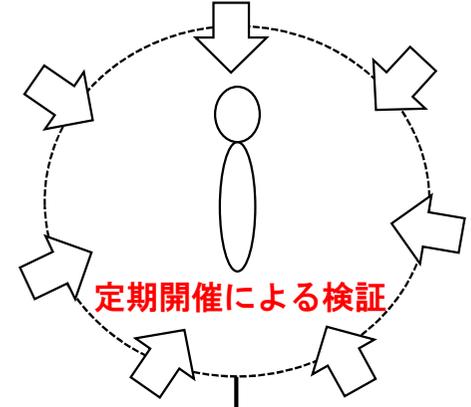
福祉まるごと連携サポートセンター (仮称)

市社協

関係機関・専門職による連携調整



モニタリング・ケース管理



困りごとの解決
地域での見守り合い

相談機関への
つなぎもどし

解きほぐし

①ケース把握
課題整理
連携会議開催
の要否判定

②課題整理
方針決定
役割分担

③モニタリング
つなぎもどし

まるごと連携検討コア会議(月1回の定例会議)

既存の制度等では対応が困難なケースの共有・
課題解決に向けた検討の場



不足している仕組みや体制の可視化

- ひきこもり者および家族への支援
⇒ ひきこもり支援NW会議
- 高齢になった障害者への支援
⇒ 彦愛犬介護保険事業者協と湖東地域相談支援事業所NWによる取組
- 困窮者や高齢者等の住宅確保(退院時等) ⇒ 今後検討予定

重点的に取り組むべき事項として共有

「課題別ワーキング会議」を開催して仕組みや体制づくりを検討

アウトリーチ支援事業

SOSの発信力が弱い世帯や当事者へのアウトリーチ

- 自ら自立支援機関等へつながることが困難
- 本人がニーズや課題を把握することが困難なために放置されたままになっている 等

課題の複雑多様化や長期化する前に、関係機関や地域支援者等と連携しアウトリーチを行っていく。

本人とのつながり構築。適切な支援へのつなぎ

住民の困りごとを地域で受け止める場

困ったこととできることをつなげる

たすけあい 鳥居本



サロン等での
気づき・声かけ



困りごとのある人



民生委員



スタッフ
メンバー



住民
コーディネーター



中長期の
ひきこもり者など

『アウトリーチ支援チーム』

専門職による

粘り強い寄り添い
必要な支援のアセスメント



保健所・医療機関（南彦根CL）・市社会福祉課・市社協



地域包括・市社協

専門職による『地域支援チーム』

住民主体の活動のサポート

→住民力(地域力)では解決できない課題への対応

アウトリーチ支援チーム

〔構成機関〕

- ・南彦根クリニック
- ・彦根保健所
- ・市社会福祉課自立支援係
- ・彦根市社協

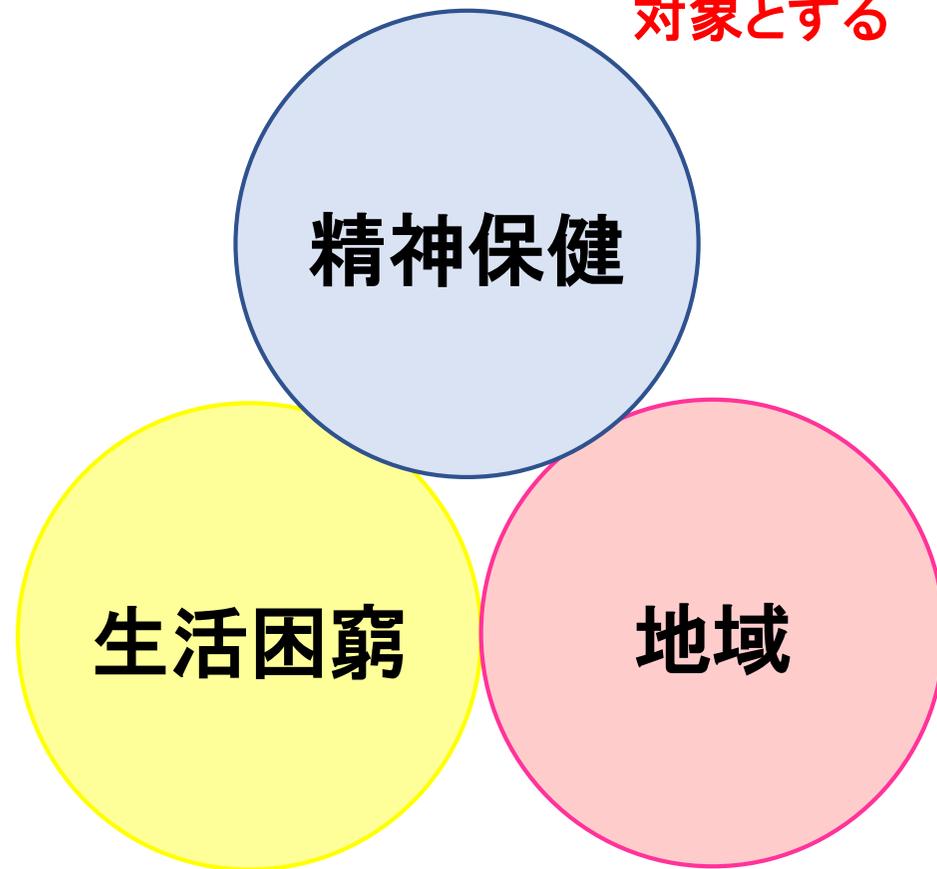
〔参加機関〕

- ・市障害福祉課
- ・市子ども・若者課
- ・県ひきこもり支援センター
- ・県社協

バックアップ

各相談支援機関

主に「中長期のひきこもり者・家族」を対象とする



3つの切り口(分野)で連携し、各相談支援機関とアプローチしていく